



今月のみさとし/天の心を地に布くをもってすなわち解脱の教えとなす。(ご聖訓第三巻12頁)

平成31年 新年初会

平成最後の新年初会が各道場で

1月5日、各直轄道場で平成最後となる新年初会が盛大に開催され、参加者は新春を祝うとともに、新たな目標に向かってより一層精進努力することを誓い合った。



岡野理事長を中心に本部役員が新年の挨拶 (本部道場)



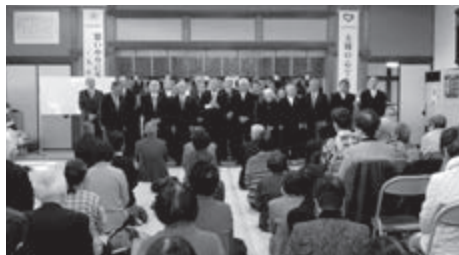
心を一につに般若心経を念唱 (御霊地道場)



世界平和と日本国の繁栄を祈念して万歳三唱 (関西道場)



全員で飛躍に向けて活動方針を確認 (中部道場)



御神前にて新年の挨拶 (湘南道場)



躍進の誓いを込めた万歳三唱 (札幌道場)

晴天に恵まれた本部道場には、約300名の会員が参集した。はじめに本部役員らが御神前にて整列、代表して新理事長に就任した岡野英夫理事長より新年の挨拶があった。拝礼行事の後、岡野理事長より講話を頂き、最後に高らかに万歳三唱し新年の門出を寿いだ。

陽光降り注ぐ暖かな日となった御霊地では、木村正則常任理事出講のもと、長老さまが見守られる中、新春をお祝いした。木村常任理事は「三建碑を中心に太陽の心をどう発揮していくか」について講話した。その後、長老さまより特別にご挨拶があった。

関西道場には本部より早川廣美常任理事が出講し、約300名の会員が参集した。

早川常任理事が大伴家持の歌を引用し「雪が積もるように吉事が重なる一年となるよう、徳積みにも励みましょう」と述べると、会場の会員たちから精進努力を誓う拍手が沸き起こった。

中部道場では170名が参加。出講の西村晴雄常任理事は、「御代がかわり、解脱会では立教100年に向けてのスタート」と、今年の心構えを述べ、布教活動方針「思いやりで生きる」を実践する重要性を講話した。最後は西村常任理事の発声で万歳三唱を行い、新たなスタートを切った。

暖かな天候に恵まれた湘南道場には、本部より服部宇之輔常任理事が出講、当道場を学びの拠点としている神奈川・静岡の両教区の会員たちが参集した。

会員たちは、服部常任理事の体験を交えた講話から布教活動方針達成への志気を高めた。

札幌道場の初会は荒天が予想される中、北海道道東・道南教区合同で開催し、遠距離の会員も数多く参加した。出講の倉田正治常任理事による年頭の挨拶の後、道林孝吉道東教区長、車康平道南教区長が各教区を代表して挨拶。万歳三唱の後、恒例の鏡開きが威勢良く行われた。

平成31年 元旦祭

多数の会員が初詣に訪れる

新たな年を迎えた御霊地では、元日前零時より元旦清祓式が行われ、午前11時から元旦祭が執り行われた。

青空清く雲一つない晴天に恵まれた元旦祭には、全国から初詣に訪れた多数の会員が参列する中、国歌斉唱、修祓、献饌に続き、長老さまが新年の祝詞を奏上。

この後、長老さま、岡野英夫理事長が玉串を奉奠され、参加者全員による拝礼行事が行われた。

岡野理事長は新年の挨拶の中で、「解脱会が一大躍進を遂げられるよう皆さんの絶大なるご協力を心から願います」と訴えた。

式典後、正月飾りや宝船を売る青年部の威勢の良い声が響く中、参加者は温かい五色うどんやお神酒などを頂きながら新年の挨拶を交わし合った。



写真上=岡野理事長より年頭の挨拶
 写真左=元旦清祓式

醍醐寺・御寺泉涌寺が本部へ来訪

新年のご挨拶にお立ち寄り



1月4日、仲田順和醍醐寺座主猊下が随行を伴われて解脱会本部に起こしになり、岡野英夫理事長と新年の挨拶を交わされた。法縁の寺であり、本会と関わりの深い醍醐寺とのご縁を深めると共に絆を強めていくことの確認がなされた=写真左。

1月17日は、御寺泉涌寺・上村貞郎長老猊下が、市橋朋幸執事、池上宥昭書記を伴



れ、天機奉伺のため東上され、皇居と各宮家に新年の挨拶回りをされた。

ご一行は、午前皇居、常陸宮邸をご訪問され、正午に本部道場にお立ち寄りになり、岡野英夫理事長と宮坂保徳教務局長が新年の挨拶を交わされた。

その後、東宮御所、三笠宮邸、高円宮邸、秋篠宮邸など各宮家を回られた=写真右。

天皇誕生祝賀式

平成最後の年、陛下の誕生日を祝う



12月23日、今上陛下85歳の聖寿を祝い、本部道場では天皇誕生祝賀式が執り行われ、岡野英夫顧問をはじめ本部役員、本部役職員、一般会員が集った。

午前9時、朝礼に続いて国歌斉唱、拝礼行事の後、岡野顧問より奉祝の辞が述べられた。続いて、陛下のご長寿と御皇室の弥栄を祈念して、万歳三唱が行われた。

その後、一行は皇居参賀に赴き、他の御皇族方と共に笑顔で長和殿にお出ましになられた天皇陛下に対し、聖寿を祝し日の丸の小旗を振り、万歳をくり返した。

平成31年4月に今上陛下が退位されることから、平成最後の誕生日を祝おうと記憶も含めて全国から過去最高の合計約83,000人が皇居を訪れた。

成人式・青年初講座 (初ブロック青年会)

各地で晴れやかに新成人を祝福



東京ブロック (6日本部道場)

20名の成人者が祝福を受けながらレッドカーペットを入場。出講の岡野英夫理事長より、「み教えを学び、自身が輝ける存在となり、周りの方々にも喜びを与えられる大人になって頂きたい」との祝辞を頂いた。第2部では、代表者の親子の手紙交換、フォトムービーの上映を行い心温まる成人式となった。



中部ブロック (13日中部道場)

山本英次道場長より祝辞が贈られた後、成人者代表から感謝とお誓いの言葉、それぞれ成人者から毎年恒例の「二十歳の約束」が述べられた。今年は親からの手紙が読み上げられ、輝かしい門出のお祝いとなった。



関西ブロック (6日関西道場)

中元敏彦道場長より「小さくとも目標を持って努力し、世の中を明るくして欲しい」と成人者へ向けて祝辞があり、記念品贈呈の後、クイズ大会を開催。最後に成人者からの決意発表をもって閉会した。



神静ブロック (13日湘南道場)

神静ブロックからは3名が参加。堀精二道場長より祝辞が贈られた。第2部では成人者が生まれた1998年の出来事をクイズにしたビンゴなどを行い、ご両親とのメッセージタイムが設けられ、新成人は終始笑顔で式を終えた。



西日本ブロック (6日)

香川多度津支部にて開催。出講の藤原了理事より心に残る祝辞と記念品の贈呈があり、1名の成人者より両親への感謝と共に、力強い決意と御礼の言葉が述べられた。会場からは温かい拍手が送られ、全員で新たな門出を祝った。



北海道 (6日札幌道場)

井上公郎道場長より、「成人として立派に社会に貢献してほしい」と激励の挨拶があり、2名の成人者の母親からの手紙を読むサプライズ企画では、参加者が感動して涙を流す場面もあり、終始温かな雰囲気の中、初講座となった。



北関東ブロック (13日御霊地道場)

宮坂保徳教務局長を出講に迎え、講話では、「若い時の経験が人生の土台となる」と何事も実践する大切さを伝えた。ブロックタイムでは今年の講座の皆勤賞の発表と今年役員紹介が行われ、新たなスタートの初講座となった。

解脱錬心館・新年祈願祭

寒稽古が行われる

解脱錬心館では1月6日午前10時より、御霊地・太神社殿前にて恒例の新年祈願祭が執り行われ、本年の躍進と稽古の安全を一同で祈願した。

翌日からは3週間の寒稽古が実施され、早朝5時半と夕方4時の二部に分かれて

寒行に励んだ。

田中宏明館長は新年の挨拶で、「期間中は剣道以外で生活の中にも1つ目標をもち、時間を有効に使う努力をしてください」と激励した。

門下生の中には、昨年7段の難関を突破した79歳になる小須田今朝人さんが夫婦で42年間寒稽古に参加を続け、今



年も元気に参加。また、埼玉県戸田市から始発電車で1時間かけて通い、稽古終了後、都内に出勤していく門下生など、熱心な姿もみられた。

相模大野支部創立40周年記念感謝会

一人でも多くの人を幸せに



12月22日、相模大野支部創立40周年記念感謝会が地元のホテルにて開催され、縁ある会員約70名が集った。

当支部は、昭和54年に中板橋支部から内藤友喜氏が独立、同56年に友喜氏の他界により長男・憲一氏が継承。平成7年に相模原鶴間準支部となり、昨年の記念大祭にて支部に昇格、改称して相模大野支部となった。当日は内藤支部長の、「一人でも多くの人を幸せにしたい」との挨拶に続き、出講の岡野英夫顧問が祝辞を述べた。直会では、米国在住の長女・裕子さん夫妻からのビデオメッセージを見た後、乾杯。楽しい余興が続き、終始和やかな雰囲気の中、お開きとなった。

釜石大町支部創立20周年記念感謝会

成人の年を迎え、新たなスタートを切る



12月12日、釜石大町支部創立20周年を、本部より出講の渡辺孝彦理事長、教区担当の山本吉朗指導員を迎え、支部道場にて和やかに開催された。当支部は、平成8年に岩手大槌支部より独立し準支部設立、合澤ミサ子氏が支部長を拝命。同10年に支部昇格、前支部長退任により合澤裕行氏が継承し現在に至る。

当日、第1部記念感謝会では、「成人の年を迎えた支部、責任を持って一層社会に役立っていく時」との支部長挨拶に続き、渡辺理事長より記念講話があった。第2部祝賀会では、山本指導員の祝辞、会員の柳下宏平氏より神楽奉納があり、支部長の謝辞で閉会。一同、歓びを胸に新たな精進を誓い合った。

こども会活動報告

東京第2教区



東京第2教区では12月2日、「親子で防災館」と題して、東京墨田区の本所防災館にて教区こども会を開催し、子供7名を含む14名が参加した。

この日、参加者たちは施設の中で地震や火事、水害、暴風雨などの様々な災害を疑似体験し、インストラクターからは防災の知識と避難の仕方、消火法や応急手当の方法を学んだ。

参加者からは「多くの体験ができて、いざという時にあわてるのが少なくなるように思えた」「災害に備えて、日常生活を見直す大切さを感じた」との声が聞かれ、親子共々に防災の意識を高める貴重な経験を積んだ。

東京第6教区



東京第6教区では12月9日、本部道場において「こども会大会〈家族スクール〉」を開催し、新しい法縁の家族3組を含め合計70名が参加した。

朝比奈憲一教区長挨拶の後、「大和サンプル製作所」の人の指導のもと「食品サンプル作り」に挑戦。当初、幼児や低学年には難しいかと思われていたが、大人や高学年に劣らず素晴らしい作品ができ上がった。続く学びタイムでは、絵本「いのちのまつり」を紙芝居風に読み聞かせ、子供たちは真剣に耳を傾けていた。

この日は親子孫と三世代の参加が多く、和やかに交流する家族や瞳を輝かせる子供の姿が印象的な一日となった。

東京第4教区



穏やかな天候に恵まれた12月16日、東京第4教区恒例の「教区こども大会」が大岡山支部にて開催され、子供17名を含む88名が参加した。

宇佐見光男教区長の挨拶、ゲームで心身の緊張をほぐした後、紙皿を飾り付けたクリスマスリースとペットボトルを再利用したペンケースを製作。

お昼には、みんなでついたお餅と女性部特製の豚汁を十分に味わった。

午後はお浄め、「天孫降臨」の紙芝居、レクリエーションを楽しみ、最後に個人的な4人のサンタクロースから投票で選ばれたサンタクロース王がプレゼントを贈り笑顔に満ちた一日を締めくくった。

第15回 教区選抜実践作文コンクール最優秀3作品



渡辺理事長から表彰を受ける伊藤さん

昨年の11月28日、第138回解脱金剛御生誕祭において、「あいさつ」をテーマとした第15回教区選抜実践作文コンクールの表彰式が行われ、最優秀賞が3作品選ばれ、当日は伊藤綾音さんが代表して作品を朗読した。

●最優秀賞

尾崎 ねね (兵庫安積)
伊藤 綾音 (名古屋鳴海)
鈴木 瑞乃 (神奈川大井)

●優秀賞

高木 颯大 (雑司ヶ谷)
西岡さくら (牛込)
鈴木 小純 (名古屋大幸)

●佳作

矢部 眞衣 (新潟葛塚)
高木 陽菜 (雑司ヶ谷)
足立 悠翔 (明石沢野)

●努力賞

高野サリー (調布)
伊藤 嘉音 (名古屋鳴海)
近藤ひより (名古屋大幸)
松隈 佑亮 (佐賀鳥栖)

鈴木 菜月 (名古屋大幸)
藤原 唯衣 (兵庫安積)
平山 拳惺 (佐賀鳥栖)
織田島なごみ (小岩)
関 千紘 (大森八幡)
宮島 悠希 (御徒町)
富田 凜音 (名古屋太閤通)
谷口 礼人 (神戸五十波)
平山 愛剛 (佐賀鳥栖)

あいさつ

=高学年の部 最優秀賞=

神奈川教区神奈川大井支部
小学5年 鈴木 瑞乃



わたしはあいさつが大好きです。
あいさつをすると、気持ちが明るくなります。
今は、ことばのあいさつと手話を習っています。そして、手話は最近やる機会

があつてやってみたら楽しかったのでやり初めました。

その機会とは、駅ビルの中のインフォメーションというお仕事体験をしたのがきっかけでした。

インフォメーションのお仕事は手話で人とのコミュニケーションをとるお仕事もしています。

なのでわたしも手話の体験をしてみました。

そしてわたしは耳の聞こえないしよ

うがい者とコミュニケーションをとりたいたいと思いました。

そしてこのきっかけのおかげでわたしは手話という新しいあいさつに出会いました。

そしてこれからは、ことばのあいさつ以外にも手話という新しい別のあいさつで、コミュニケーションをとっていきます。そしていろいろなあいさつを使ってもっともっとあいさつをいろんな人にとって明るくなってほしいです。

あいさつ

=中学年の部 最優秀賞=

名古屋第1教区名古屋鳴海支部
小学4年 伊藤 綾音



わたしは毎日、6時40分に目ざまし時計が鳴ると起きます。起き上がると時計を止めて一階のリビングへ行きます。
お母さんはわたしが下りてくるとすぐに元気な声で「おはよう」と言ってくれます。わたしも毎日「おはよう」と言っているけれど、時々お母さんはわたしに

「あや、だいじょうぶ？」とか「体調悪いの？」と聞きます。わたしは元気なのにどうしてお母さんはそんな事を聞くのかな？ と思っていました。それは、わたしの声小さかったり、まだねむくてきげんが悪かったりする時にそう聞かれると気づきました。

お母さんは、わたし達の朝ごはんのじゅんびや仕事へ行く仕たくていそがしいのにわたしの「おはよう」というあいさつ一つで元気かな？ 熱はないかな？ など分かってしまうのです。

お母さんはいつも「あいさつはきちん

としなさい」と言うけれど、わたしははずかしくて声が小さくなってしまいます。学校へ行く時も近所の人、見守りたいの人や、交通しどう員さん、友達、先生などに自分から大きな声で「おはようございます」と言えるようにしていきたいと思っています。

あいさつには、「いただきます」「ごちそうさま」「いってきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」たくさんありますが、自分の気持ちがきちんと相手に伝えられるようにあいさつをしていきたいと思っています。

まほうのことば

=低学年の部 最優秀賞=

兵庫教区兵庫安積支部
小学1年 尾崎 ねね



わたしは、しょうがっこうににゅうがくしてから、おともだちがたくさんできました。
あさ、がっこうにつくとともだちが、はしてわたしのところにきてくれて「ねねちゃんおはよう！」といってくれることがあります。わたしもきげんよく「お

はよう」とかえします。とってもうれしくいきもちになります。ところがすっきりします。それから、いちにちがたのしくなりそうなきがします。あさのあいさつは、だれにでも、げんきよくすることがたいせつだとも思います。

わたしには、7さいとしうえのおにいちゃんがあります。ちゅうがく2ねんせいです。ときどきけんかをします。おにいちゃんにおこられると、ところがくらくらになります。だいきらいになります。でも、やさしいときは、あさおきると「ねね、おはよう」「きょうもいちにちがっこうが

んばれよ」「たのしんでこいよ」とやさしくこえをかけてくれます。ところがふわっとあかるくなって、うれしくなります。

おとうさんとおかあさんが、しごとからかえってくると「おかえりー」とげんきよくいいます。すると、「ただいま」といってぎゅっとしてくれます。「つかれがとれる～」といってくれます。

きもちのいいあいさつは、こころをあかるくしたり、げんきづけたりしてくれるまほうのことばだとも思います。

これからも、こころをげんきにすまほうのことばをたくさんつかいたいです。